愛媛新聞
2019(令和元年).7.11（木）24面

東温高野球部で3年間、男子と同じグラウンドに立ち汗を流した田中望選手＝8日、東温市志津川

貫いた私の野球生活

女子選手 田中さん（東温高）

「自分にはもったいないくらい幸せで楽しい野球生活を送ることができた」。東温高校（東温市志津川）野球部の田中望選手(18)は県内の3年生で、ただ一人の女子プレーヤー。男子部員と同じグラウンドで汗を流す彼女の表情は、野球をできる喜びに満ちあふれていた。

幸せな3年 仲間に感謝

田中選手が本格的に競技を始めたのは高校から。小学生のころから野球が好きで、やってみたい気持ちはあったが中学野球部は男子ばかり。「入部する勇気が出なかった」。葛藤しながら、遠くから練習を眺め続けた。

「もう、もやもやしたくない。高校では絶対に野球をやろう」と固く誓い進学。「男子と同じ練習をしたい」との覚悟を野球部の監督に伝え、門をくぐった。

未経験者ゆえに最初はフライを全く捕れず、一、二塁間の距離ですらノーバウンド送球ができなかった。男子と同じ練習メニューをこなすことで悔しさを味わうことも、迷惑を掛けていないかとつらい思いをすることもあった。壁を乗り越える原動力となったのは、やっと野球ができた喜び。「特別扱いをせずに接してくれた監督や仲間に感謝しかない。公式戦には出られなくても、この野球部だからやってこられた」

2年前に就任した堀内準一監督は「厳しい練習でも一切、弱音を吐かない。彼女の強さはチームにとってプラス」と目を細める。

6月18日の松山中央高との3年生送別試合に、8番セカンドでフル出場。初の実戦守備ではエラーもあったが、苦手のフライを処理。ライト前にヒットも放ち、部員として最初で最後の対外試合を楽しんだ。

13日開幕の愛媛大会はスタンドから声援を送る。記録員としてベンチ入りを打診されたが「記録員は制服。最後までユニホームに袖を通して、終えたい」と辞退した。

高校3年間の集大成を前に、田中選手は「スタンドでは誰よりも大きな声を出したい」。小麦色に日焼けした顔に笑みを浮かべ、苦楽を共にしたナインと、一日でも長く夏を過ごせることを願った。

（清家康尊）

2019年7月11日付愛媛新聞
（掲載許可番号：d20190716-002）